

令和2年度事業報告

夙川さくら保育園

1. はじめに

コロナ禍の中で園生活においても変化が求められ、試行錯誤を重ねながらの保育を年間とおして実施してきました。また、子どもの育ちのために何が大切なのかを全職員で再確認をした時期にもなりました。衛生管理の仕方、3密を避ける保育内容、規模縮小も視野に入れた行事計画と実施に向け、感染状況を見ながら新しい発想で取り組み方を練り、行事の在り方、目的や対策なども合わせて、職員会議で協議し意見を出し合い進めていきました。運動会や生活発表会では、特別なことはせず、今まで培ってきた保育内容や体験を生かし、子どもたちの持っている力を十分に発揮する場として位置づけました。そして、どのような状況下であっても、子どもたちの主体性を尊重する保育の柱を崩さなかったことは、職員集団として大きな強みとなりました。保護者の方には、保育の「見える化」に努め、保育に対する理解と信頼が得られるように発信し続けていきました。

職員の質の向上では、在宅勤務中の自己研鑽やキャリアアップ研修は大きな成果をあげました。リモート研修で参加者も多数あり、職員同士、学びの共有ができました。それらの学びが自信となり、子どもたちの発達に沿った実践につながっていきました。

園内の働きやすい職場環境作りでは、人事制度に伴う目標管理シートを基に法人理念を再確認し、振り返る機会となりました。人権に関するマニュアルの作成、研修や話し合いも数回行ったことで、園全体で取り組む課題が明確になり、意識の向上に役立っています。今後の改善、全職員が自主的に課題を持つなどの意識改革が、若手職員の定着や離職防止につながると感じています。職員のチームワークの強化としては、連携を密にして、励まし合い、認め合い、助け合い、気持ちよく協力していけるような関係性を積み上げているところです。

こども園への移行を見据えて、法人や安井保育園と話し合いの継続、研修や幼稚園見学も行い、運営委員会で深め合いをしています。全職員向けとしては、幼稚園免許更新と取得に関してアンケートを取って意向調査を行い、状況把握に向け動き出しました。

2. 事業報告

- 1) 施設を利用される保護者と手を携え、保育園の独自性を活かした施設運営を行います
(ア) 西宮市の待機児解消を受け、園全体として利用率115%、92名(定員80名)の利用を今年度も堅持していきます。
⇒4月から12月までは、利用率115%、92名で推移していました。1月に4歳児1名の退園があり年度末までの3カ月間の利用率は113%、91名となりました。

<利用状況> 【定員 80名】 予算月平均利用者数 91.8名 114.7%

| 年齢/月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 平均 | 前年度 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 0歳 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 5.6 |
| 1・2歳 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 27.8 |
| 3歳 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 19 |
| 4・5歳 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 38 | 37 | 37 | 37 | 37.8 | 38.8 |
| 合計 | 92 | 92 | 92 | 92 | 92 | 92 | 92 | 92 | 92 | 91 | 91 | 91 | 91.8 | 91.3 |
| 利用率% | 115 | 115 | 115 | 115 | 115 | 115 | 115 | 115 | 115 | 113 | 113 | 113 | 114.7 | 113.6 |

(イ)「障害児保育」の加配保育士、3歳児の生活支援保育士を配置し、きめ細かい援助をします。一人ひとりの状況を把握し、年齢・個別に応じた保育を行う中で、個の育ちと集団としての取り組みの充実を図り、ともに成長していけるように支援します。

⇒情緒が安定し、心身ともに健康的な生活が送れるよう、発達に合った保育を展開し、規則正しい生活習慣を身につけるための援助を行いました。

個人カリキュラムから、日々の子どもの様子を観察し、記録し、振り返り、全職員で情報を共有し、保護者にも伝達し進めていきました。

保健師巡回時は、助言をいただいたことを保育に反映していきました。

(ウ) 保育の充実を図ります。

「あそび」・「食育」・「身体づくり」・「感性を磨く」の取り組みについて、3園で連携し、カリキュラムの見直しや実践研修をすすめます。

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止策での在宅勤務では、子どもたちが生き生きと過ごせるように、手作り玩具や遊びなど年齢や保育内容を深めていく時間となりました。カリキュラムの見直しも期別に行うことで、きめ細かな振り返りができました。感性を磨く研修では、お互いの考えを認め合い共感し合う場となり、活発な意見交換会となりました。

(エ) 子どもたちの日々の様子を保護者にタイムリーに伝え、信頼を得られるように発信します。

⇒保育のドキュメンテーションの作成をして、保育の見える化を実施しました。活動を通して、子どもの成長過程や興味関心、遊ぶ姿をリアルタイムに伝えることができました。

廊下やホール、ランチルームのピクチャーレールに、季節感のある子どもたちの作品を展示しました。

(オ) 保護者の相談や感染症対策など、きめ細やかに対応していきます。緊急の場合は、一斉送信メールにて、早急に伝えます。

⇒不安を抱える保護者に対しては職員から声かけ、必要に応じて個別に相談できる場

を設けました。緊急事態宣言下では、担任が定期的に個別に電話連絡をし、家庭や子どもの様子の把握に努めました。

新型コロナウイルス感染拡大防止策については、西宮市や法人本部からの情報、保育の受け入れ体制のお願い、衛生管理の継続のための消毒などのご協力を求めました。

よい子ネットの一斉メールでは、新型コロナウイルス感染拡大防止策や西宮市の通達、園の対策や保護者への協力事項をこまめに伝達しました。

(カ) 土曜日の空き部屋を保護者交流の場として、開放します。

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止策により、開放を見合わせました。

(キ) 保護者の要望に合わせ、年末保育の実施を安井保育園と共同で保育に取り組みます。

⇒12月29日に保育を必要とするご家庭の子ども1名を安井保育園と合同で家庭的な雰囲気の中、保育をしました。

(ク) 地域子育て支援事業内容を地域のニーズに合わせて計画・実施します。

⇒基本的な感染拡大防止策と規模も縮小し、且つエレベーターの利用でルートも確保した上で実施しました。

行事関係では、ご家庭で楽しく親子の時間が持てるよう工夫を凝らし工作キットをお渡ししました。

園見学は土曜日に開催し、密にならないよう1回3組限定、ネット予約を取り入れました。

2) 保育の質向上のために

(ア) クラスの枠を超えて保育の応援体制を作り、働きやすい職場を目指します。

⇒子どもにとって、より良い関わりを考え大切にするために、声の掛け合いを意識し、コミュニケーションをとる場を多くしたことで、信頼関係を築きました。7クラスを超えて感染拡大防止策に努める中で、役割を自覚し、責任を果たすとともに、他の職員の立場や状況を十分に理解し、お互いに協力や助け合いをとおして、チームワークの大切さを実感できる場面が多くなってきました。

(イ) 職員の心身の健康保持のため、事務等を簡素化し、事務時間の軽減をします。

⇒通年、フリー保育士が担任を補助し、勤務時間内で終わるように体制を組みました。

(ウ) 「保育指導日」を中心に園内研修を充実させ、保育園内交換研修、3園合同の研修会も年間の研修に位置付けて、ともに学び育ちあえる仕組みを作っていきます。学んだ内容は、自己課題を解決・達成しつつ、日々の保育活動に活かします。

⇒経年齢別や少人数のグループに分かれて園内研修を重ねていったことで、意見交換が活発になり尊重し合える雰囲気になったことで、保育内容がのびやかになりました。

施設統括部長や参与の指導を全職員で共有し、保育環境や保育内容の振り返りや改

善をしていき、日々の保育実践に反映させていきました。

研修の充実を図ることで、職員自身の仕事に向かう姿勢や保育を深める探求心となりました。また、子どもに向き合う意識向上にも結び付いています。

(エ) 一人ひとりが自ら研修計画を立て外部研修に参加することで、学びの意欲につながれるよう、積極的に受講し研修内容を職員間で共有し専門性を高めていきます。

⇒積極的にリモート研修に参加しました。研修時間の確保ができたことで、参加人数も増え、有効的に活用しました。同じ研修に複数人参加したことで、共感性が膨らみ専門性も高め合い、スキルアップができました。

日々の活動を再考する機会となり、細やかさのある保育内容を目指しました。

(オ) 自己評価とヒアリングを前期・後期に分けて実施し、尚且つ、新人事制度のふりかえりをとおして、円滑な職場環境作りや人材育成に活かします。

⇒法人理念に基づくより良い職場環境や理念に沿った人材育成を行うために、定期的に自己評価や面談をしていきました。人事制度の目標管理シートを基に振り返りを行うことで、一人ひとりが向上心が持てる機会となりました。

人権に関わるアンケートを取り会議で共有することで、働きやすい職場環境になるように努めていきました。

(カ) 実際に起こりうることを題材し、ロールプレイングやケーススタディを導入し、実践を想定した研修を定期的に設け、対応力を身につけます。

⇒感染拡大防止策の観点から対面ではなく、少人数での書面の研修に切り替えました。ケーススタディは、職員会議で情報を共有し、対策を練っていきました。同時に、質の良い保育とより良い環境も作り上げていけるように意見交換を行いました。全職員が同じ対応ができるように、保育の知識や技術を習得し、専門性の向上につなげていきました。

(キ) 医療的ケア児の受け入れに向けて、西宮すなご医療福祉センターと連携し、職員研修の計画・実施を行い、職員の学びを図ります。

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止対策期間とも重なり、実施には至りませんでした。

3) 地域子育て支援及び地域との交流

(ア) 地域子育て支援担当者が中心になり、魅力ある体験保育、子育て教室、園庭開放、園内行事への参加、絵本の読み聞かせなどを実施し、保育園を身近に感じていただけるよう、屋外掲示板やホームページ上で参加を呼びかけます。また、担当保育士を配置し、子育ての相談が気軽にできるような関わりを持ちます。

⇒支援担当者を決めて、親しみやすい雰囲気を作り、感染拡大防止策を徹底した上で、取り組みをしました。

保護者からの育児相談だけでなく、保育士からも積極的に話しかけ保護者に寄り添う関係を築いていきました。

必要を感じた場合は、一時預かり保育を紹介して利用につなげていきました。

(イ) 保育園の栄養士・保育士が専門性を活かし、積極的に育児講座に関わり、地域の子育てに貢献します。園内の人材活用だけでなく、看護師等も招請していきます。

⇒感染拡大防止策の中、離乳食講座は見送りましたが、食育だよりを掲載した子育て新聞を配布し、保護者の方にも食の大切さを発信しました。

栄養士が視覚的に楽しめる献立を立て、子どもたちが喜んで食べている姿を一緒にブログで紹介しました。

(ウ) 青少年愛護協議会の場を活用し、保育園が地域に根付くように、本園の方針や取り組みと地域のさまざまな情報を共有していきます。地域の方にも園行事に参加していただく中で、園への協力と理解を得ていただけるよう努め、地域とつながる気持ちを大切にしていきます。

⇒地域の方に安心して利用していただき存在感のある保育園であるために、保育内容の充実を図り、保育園への理解と情報の共有を行いました。

安井小学校が避難場所になっているため、小学校校長と緊急時の連携を得たことで、避難訓練でも協力体制が取ることができました。

(エ) 子どもたちとのふれあいや保育園内外の環境整備など、学生や地域からボランティアを募り、新たなことを知ろうとする力を育て、保育に反映させていきます。

⇒感染拡大防止策のため、募集は中止しました。

(オ) 保育の専門理論や知識・技術の習得に励む実習生については、次世代育成を担う保育士を養成する立場から積極的な受け入れに努めます。

⇒学校側にも感染拡大防止策を考えていただき協議をし、7名を受け入れました。

(カ) 法人の高齢者施設（にしのみや苑）や児童発達支援センター（北山学園）との交流を計画的に取り組み、人とのふれあいをとおして、おもいやりの気持ちを育みます。

⇒感染拡大防止のため、対面での交流は行いませんでした。

高齢者施設とのビデオレターの交流では、子どもたちは高齢者の方に思いを寄せ、保育園での様子を楽しそうに紹介していました。

(キ) 園周辺や近隣の公園の清掃活動を行うなど、地域貢献ができることを積極的に行います。

⇒職員が園周辺や近隣公園内の掃除と水やりを行う場面で、地域の方からお声をかけてくださることもあり交流の場となっています。

〈 子育て支援事業 〉

| 内容/月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|-------|-----|---|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|---|-----|----|---------|
| 育児相談 | | | | 2 | | | 5 | 1 | 1 | | | | 9件 |
| 体験保育 | | | | | | | | | | | | | 実施なし |
| 短期体験 | | | | | | 10組 | | | | | | | 10組 20名 |
| 子育て教室 | | | | 4組 | | | | | 7組 | | 7組 | 4組 | 22組 44名 |
| 育児講座 | | | | 6組 | | 7組 | | 7組 | | | | | 20組 40名 |
| 園庭開放 | | | | | | 41 | 54 | 8 | | | 12 | | 115名 |
| 子育て新聞 | 200 | | 200 | | 200 | | 200 | | 200 | | 200 | | 1200部 |

短期体験・・・9月 1歳児・0歳児

子育て教室・・・7月七夕 12月クリスマス 2月節分 3月ひなまつり

育児講座・・・7月手作り玩具 9月感触あそび 11月親子あそび

4) 安心・安全・快適な環境づくり

(ア) 備品の補充を行い、さらに子どもの保育・生活環境整備を行います。

⇒机や玩具を購入して、なるべく密にならないように環境を整えました。また、玩具や家具の消毒を毎日行うことで、衛生面にも心がけていきました。

栄養士が講師となり手洗い研修を実施した後、視覚的にもわかるよう手洗いキットを用いて実践しました。丁寧な手洗いに結びつき研修の成果がみられました。

(イ) 毎月、避難訓練を計画し、消火訓練・不審者・地震対応の訓練を複数回入れ、あらゆる場面を想定した実効的な訓練を実施します。

災害時の備蓄品を防災担当者が中心になって管理し、充足を図ります。

⇒災害に備え、さまざまな想定避難訓練を、毎月、担当者をかえて実施し、その都度振り返りをしました。

備蓄品は、防災担当者が中心となり、リストアップし全職員で確認し、定期的に倉庫内の整理を行い、取り出しやすくしています。

日頃から、職員は笛を身につけ保育にあたることを徹底しました。子どもたちは、笛が鳴った時は職員の近くに集まる習慣が付き、緊急時に備える行動が確立されました。

(ウ) 常に危機意識をもち、安全への配慮をしていきます。

毎月、全職員が順番に安全点検を行い、修理が必要な箇所については、早急に対応し、安全で快適な環境を常に心がけます。

⇒毎月、安全点検表に基づき実施をしました。気が付いた時や修理が必要な時には、即修理の依頼をして安全第一を心がけました。

(エ) 検討委員会(保健衛生・事故発生)で事故防止の徹底化を図り、職員にあらゆる場面を想定した研修やマニュアル(乳幼児突然死症候群(SIDS)・アレルギー除去対

応・誤食・感染症対策など)を周知します。

⇒虐待防止やハラスメント防止マニュアルを作成し、疑いのある事例があった場合は報告を行うよう全職員間で周知しました。社会の背景や状況についても知ろうとする職員もいました。

各マニュアルに基づき全職員で確認を行い、問題点があった場合は、緊急に会議を開き検討と修正を行い周知しました。

乳幼児突然死症候群や熱中症の予防と対策として、注意事項の掲示や体調面を含むチェックリストを活用しました。

プールあそびや水遊びの実施についても熱指数を考慮し安全に取り組みました。

(オ)「ヒヤリハット」を日誌に記載して、事故防止委員会を中心に職員全体で共有することで、事故防止に努めます。

⇒職員会議で事例の詳細、傾向、原因、対策を出し合い共有することで、職員の意識化・事故防止・予防につながる取り組みになりました。全職員で原因と対策を検討することで、子どもの年齢や発達に応じた危険因子の把握と再発の防止に努めました。

(カ)地域の避難所としての機能を整えていきます。(非常食の準備等)

⇒栄養士が、非常食のリスト作りと確保を行いました。備蓄場所の整備は、栄養士と防災リーダーが中心となり、非常食の提供方法の研修も実施し、緊急時に備えました。

(キ)安全を期すため、園外保育での配慮事項の徹底、「お散歩マップ」の作成と安全ルートの確認をします。

⇒全職員で、園外保育の安全確保の方法や散歩先での感染対策の研修を行いました。散歩先を掲載した地図を掲示板に貼り出し、保護者の方にも安全なルートを確認していただきました。

近隣での工事情報は保護者の方と職員で共有し、登降園時や散歩ルートの迂回と注意喚起を行いました。

(ク)安井保育園の栄養士と定期的に会議を設け、安心・安全な食事の提供とアレルギー食の細かな対応や、季節感のある献立、食育への取り組みの共有化を図ります。

⇒来年度からのハサップ導入を視野に入れて、職員にもその重要性や保育現場でも意識して食事提供ができるように働きかけました。

行事食について、子どもたちに喜んでもらえるよう、両園が意見を出し合い、改良を重ねていきました。

アレルギーを含む食事提供では、事故のない安心で安全な体制作りを常に心がけていきました。

(ケ)設備・環境整備

防犯セキュリティの面から、建石筋沿いの門扉と塀の高さの見直しを行い、工事を行います。

⇒再度、道路沿いの門扉付近で遊ばないような保育の環境や内容の徹底をしました。

門扉の高さを出すことで重さが増し、緊急時の扉開閉に困難をきたす点が予想されたため、工事は行いませんでした。

不審者対応の避難訓練を法人の施設統括部長の指導のもと、強化しています。

5) 一時預かり事業

(ア) 一時預かり事業は保育士を2名配置し、年間利用者数は1,600名以上を目標とします。

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止策による自粛や緊急事態宣言に伴い利用者が減り、年間1,200名の利用者となりました。

(イ) 子どもたちには安心して過ごせるように、保護者の方には安心して預けていただけるように、より丁寧な保育を心がけることで、リピーターの増加を目指します。

⇒子どもの育ちに見合った丁寧な対応と手作り玩具の作製を提供したこともあり、利用者の定着につながっています。

(ウ) 気軽に保護者が子育ての悩みや相談を話していただける関係性や体制を作ります。

⇒保護者の方からの育児相談に積極的に対応したところ、利用者の紹介で新規利用者の獲得につながっています。

(エ) 異年齢保育の質を向上や事業内容充実のために、担当者の研修と備品や玩具を整えます。

⇒異年齢保育の中で培われる育ちを大切にする中で、子どもたちが主体的に遊ぶよう、使いやすい生活環境の動線や玩具の選択をし、心地よい居場所となるように配慮しました。

玩具を整えたことで選択肢が広がり、自主的にあそび出す姿も多くなりました。

(オ) 乳児の利用が多い傾向のため、乳児に適した安全を考えた環境の工夫をします。

⇒子どもたちの年齢に合わせて過ごしやすい生活を保障するために、ゆったりとした職員配置を取ったことで、子どもたちも落ち着いた生活が送れました。

保育室の雰囲気にあった安全で使いやすさを備えた棚を購入し、より快適な環境となりました。

<一時預かり保育 利用状況>

| 年齢/月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 昨年度 合計 |
|-------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----------|
| 0歳児 | 1 | 0 | 0 | 5 | 4 | 7 | 24 | 23 | 22 | 16 | 22 | 35 | 159 | 108 |
| 1歳児 | 5 | 0 | 32 | 36 | 31 | 41 | 46 | 60 | 54 | 52 | 62 | 62 | 481 | 392 |
| 2歳児 | 3 | 0 | 18 | 50 | 11 | 28 | 37 | 33 | 42 | 18 | 27 | 30 | 297 | 986 |
| 3～5歳児 | 35 | 12 | 11 | 19 | 60 | 24 | 18 | 16 | 24 | 25 | 17 | 24 | 285 | 81 |
| 合計 | 44 | 12 | 61 | 110 | 106 | 100 | 125 | 132 | 142 | 111 | 128 | 151 | 1222 | 1567 |